

## 第1 令和2年度普及活動トピックス

## (1) 将来の地域農業の核となる多様な担い手の育成

### ～ 農業女子会と農業青年クラブ(TKC) 支援 ～

【経営担当】

#### 主な活動内容

- 新規就農者は、夫婦就農が多く、女性も就農しているが研修は男性の出席が多く補佐的な役割になっていることから、女性農業者に向けた研修を強化し、経営体の継続的な農業経営の発展を図り、意欲ある農業者の育成を図ってきました
- 武雄・杵島地区の農業青年クラブ(TKC)は49人で活動をしており、県内でも最大規模のクラブで、クラブ員相互の絆を深め、お互いの技術向上を図ることを目的に活動をしています。

#### 【成果等】

##### 1. 若い女性農業者の育成

10月30日に、いちごのトレーニングファーム研修生、新規就農者、若手女性農業者で「いちご女性農業者交流会」を開催しました。これは、白石地区のいちごの若手女性農業者がいきいきと活躍できる農業経営ができるように、先にグループ化の兆しが見えた「いちご」品目で開催しました。トレーニングファーム研修生の不安や経営移譲を前にした女性農業者の悩み、経営の課題などを共有し、今後、イチゴの作業を頑張って、栽培が終了したころにまた集まって交流しようと盛り上がりました。



いちご女性農業者交流会

##### 2. 4Hクラブ 冬のつどいを実施

「令和2年度TK4HアグリマネージメントCLUB冬のつどい」を1月29日に開催しました。「農業青年の提言」では、3名の発表があり、最優秀賞に輝いた武雄市山内町の澤井翔平さんは、美味しい茶を消費者に届けたいとの想いを、静岡県で、2年間の研修と1年間の茶農家で住み込みの修行で得た技術や知識をもとに、現在茶生産・販売に工夫していることなどの夢を熱く語られました。また、優秀賞には、白石町の辻田幸介さん、記伊健太さんが選ばれました。

「経営発展プロジェクト」では、白石町の野口隼汰さんが、タマネギ産地の再興に向けて～施肥設計による品質向上～について発表され、最優秀賞に輝きました。



地区冬のつどい

#### 【今後の展開方向】

次年度についても、女性農業者や農業青年クラブの農業者がいきいきと経営できるよう、ネットワークを構築して、農業経営者としての自覚を高める活動を実施します。

## (2) 新規就農者の確保・育成の取り組み

【経営担当】

### 主な活動内容

- 令和2年の新規就農者は41名でした。杵島普及センターでは、新規就農者や青年農業者等の早期経営安定を図るため、新規就農者激励会や「青年農業者等育成塾」を開催しています。
- みどり地区でキュウリとトマトで、白石町ではイチゴで、トレーニングファームの研修生が新規就農を目指し技術研鑽を行っています。今後も新規就農者の確保・育成を目指し運営に参画し、支援を行っていきます。

### 【成果等】

#### 1. 新規就農者が決意を新たに

令和2年度の新規就農者は41名。うち新規学卒が1名、Uターン就農が17名、新規参入が18名、法人就農が5名でした。

8月に新規就農者激励会を開催し、新規就農者はそれぞれ決意表明を行い、新規就農者はそれぞれ決意表明を行い、「頑張って儲ける農業をしたい」など意欲的に農業経営に取り組む決意を新たにしました。白石町の先輩農家の白浜学氏からは、「ネットワークを大切に、何事にもチャレンジして頑張ってもらいたい。」とエールが送られた。

また、農業士からは「コロナ禍の中ではあるがピンチをチャンスに頑張ってもらいたい」、関係機関からは、「儲ける経営をしてほしい。地域のリーダーになってほしい。」と激励の言葉がかけられた。



新規就農者激励会での決意表明

#### 2. 新規就農者の早期経営安定を目指して

杵島普及センターでは新規就農者が早期の経営安定を支援するため、重点的に個別巡回指導を行うとともに、「青年農業者等育成塾」を実施しています。

育成塾は全部で9講座を用意。経営や土づくりなどの基礎講座と、自分の経営品目について学べる選択講座とし、就農後必要不可欠な知識や考え方とともに、専門的な知識が習得できる内容としました。今後の営農計画（経営方針）を一緒に作成するなど実践に即した実習も行いました。受講者からは、「先輩から具体的なアドバイスが受けられたり、他の園地を見たりすることで、自分の経営を見つめ直すいい機会がえられた。」「基礎的な部分が重要なことだということを知った。」「新たな仲間づくりになってよかった。」等の意見がありました。



先輩の経営事例を聞く受講生

#### 3. トレーニングファーム研修生の支援

トレーニングファームにおいてキュウリで、3期生4名、4期生3名、トマトで2期生1名、3期生3名、イチゴで1期生4組5名、2期生3名が研修中で、就農に向け、研修会や個別指導で営農計画策定や生活設計作成の支援を行った。研修生の現況・課題等を関係機関で情報共有し、研修生個々の営農計画や生活設計を、講座や個別指導で行い、就農計画や資金計画の作成支援により、研修生の就農に向けた準備が出来た。

### 【今後の展開方向】

引き続き、新規就農者の早期経営安定を目指した研修会の開催や確保に向けた支援等を行います。

### (3) 若木地区の新たな地域営農システムの構築

#### 主な活動内容

#### 【水田営農・畜産担当】

- 活力ある中山間地域の実現にむけて、中若木集落営農組合を対象にワークショップを開催しました。
- 将来の「人」「農地」の動きを可視化して地域営農の課題解決につなげる「若木地域農業の将来を考える意見交換会」を開催しました。(調査参加戸数 193 戸)
- 地域農業の課題解決にむけた取組みは、「若木営農新聞」として若木町農業者 340 戸に毎月 1 回配布し情報共有化につなげました。

#### 【成果等】集落営農組合に対する組織運営支援

1. 集落営農組合の目的を再確認し、地域営農のあるべき姿を描き実行に移すことを目的に、中若木営農組合を対象にワークショップを3回行いました。ワークショップを通じて組織理念にむけた組織の行動計画書である「実践計画書」を策定できました。また、実践計画で提案された「農地」「人」をうまく活用できる仕組みづくりについて検討しました。
2. 「若木地域農業の将来を考える意見交換会」は、11月及び1月にて2つの営農組合(193戸)を対象に将来の地域営農に関する意向調査等を行いました。調査結果をもとに「地域農業の将来設計図」が地図を使って可視化でき、地域農業の課題を提起し、次世代に繋ぐ地域営農の仕組みづくりとなる「農地に関するルール化」を提案しました。
3. 地域農業の様々な課題解決にむけて実践された事例について若木町内全体に情報を浸透して解決策の一助につなげるため、「若木営農新聞」を11月から毎月1回340戸に配布しました。



ワークショップ(中若木)



将来の意向を反映した「将来地図」



#### 【今後の展開方向】

1. 将来地図作成を通じて「農地に関するルール化」が構築され、実際運営する上での課題の整理、検証を引き続き行っていく
2. 営農新聞等による組織の取組み成果を情報共有化。また、他組織への波及効果につなげる。

#### (4) 集落営農組織の運営強化～武雄・杵島地区集落リーダー研修会開催～

【水田営農・畜産担当】

##### 主な活動内容

杵島営農システム化推進会議では、8月21日（金）にJAさがみどり中央支所において、各市町から推薦があった4つの集落営農組織を対象に集落営農リーダー研修会を開催しました。

研修会では、武雄市の「農事組合法人 中野みつば」からの事例紹介と組織毎にテーブルを囲んで「理念（ビジョン）の再確認」、SWOT分析のうち「組織の強みと弱みを知る」の2部構成でワークショップを行いました。

9月からは組織毎に話しを進め、理念実現に向けた課題整理、課題解決方策を重要度・優先度から重みづけを行い実践プログラムの作成につなげてもらっています。

##### 【成果等】

令和元年度に実施した集落リーダー研修会では、集落営農組織の将来目標が「明確でない」と回答した組織が半数以上を占めていることが判明しました。そのため、令和2年度は組織理念の実現するための手法を学ぶこととし、ワークショップを行いました。

ワークショップを通じて、集落営農組織が発展していくためには集落営農組織の目的を理解し、将来目指すべき方向を話し合い、目標実現に向けた実践計画を立て、これを毎年の総会で確認し合い、実践していくことの重要性が提示できました。

8月研修会后、4組織ごとにワークショップが実施され、そのうち1組織は実践計画書を作成し、全体集会にて活動目標を提案されるなどの成果につながっています。



ワークショップ



成果発表

##### 【今後の展開方向】

令和3年度本リーダー研修会では、4つの組織から話し合った結果を報告する計画です。

これらの手法をもとに他の組織でも話し合いが加速化し、組織の運営強化につながることを期待しています。

## (5) 新品種高オレイン酸大豆「佐大H01号」の産地確立にむけて

### 主な活動内容

【水田営農・畜産担当】

- 実需者からの期待が大きい高オレイン酸大豆の産地形成を目指し、高オレイン酸大豆武雄振興会を設立しました。
- 振興会では、実需者や育成者の佐賀大学の教授を招いた「産地見学会」や「食味会」を実施しました。生産者と実需者が顔を合わせるよい機会となり、活発な意見交換が行われました。また、高オレイン酸大豆を使用した豆乳は「こくがあり、さっぱりとしたのどこしで飲みやすい」などの既存品種にない期待される特長を実感し、栽培者の生産意欲の向上につながりました。
- 今後は、安定生産を目指して試験展示圃の設置や栽培研修会等を開催します



産地見学会の様子



食味会の実施



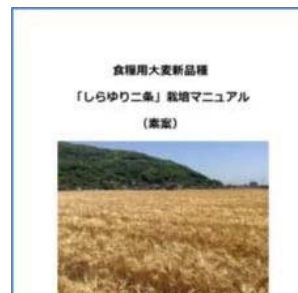
## (6) 有望品種「しらゆり二条」の安定生産技術の確立に向けて【水田営農・畜産担当】

### 主な活動内容

- 大麦の新品種「しらゆり二条」は、調理後に褐変しないことから麦ごはんやみそへの利用拡大が期待され、江北町では84ha作付けされます。
- 県内でも有数な産地である江北町栽培者からのニーズを受けて「しらゆり二条栽培マニュアル（暫定版）」を作成し「しらゆり二条栽培研修会」を行いました。
- 今後も引き続き、しらゆり二条の高位安定生産を目指して現地試験展示圃を設置し、栽培マニュアルの改訂を行います。



栽培研修会の様子



しらゆり二条栽培マニュアル

## (7)「いちごさん」の安定生産に向けた病害虫対策技術

【園芸担当】

### 主な活動内容

- 管内における令和2年産の「いちごさん」の作付面積は9.9haで、総面積の約5割を占めています。栽培が拡大傾向にある中で、病害虫や果実品質に対する課題が明らかとなってきました。
  - 特に、炭疽病やハダニといった病害虫の発生による収量低下が問題となっており、原因の1つとして、苗から本圃への持ち込みが多いことが考えられます。
- そこで、育苗時期の病害虫対策として、「0枚育苗」、「天敵利用」について試験を行いました。

### 【成果等】

#### 1. 0枚育苗

0枚育苗とは、育苗時期に定植用苗の葉を除去することで、通気性の確保や薬液の付着性向上により病害虫を抑え、良質な苗をつくる技術です。

今年初めての取組みでしたが、炭疽病の発生はほとんどなく、農家からは「管理もしやすいので継続していきたい」との声がありました。

花芽分化の遅れ等がみられましたが、定植後の生育は問題なく、0枚育苗の影響はみられませんでした。

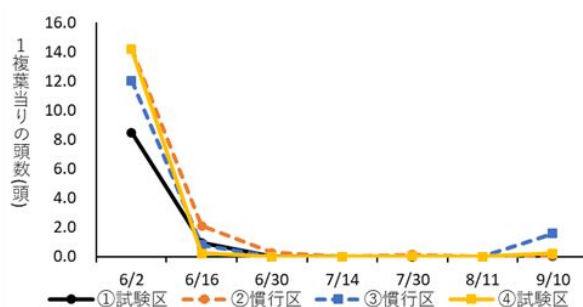


8/13 0枚処理後の株の状態

#### 2. 天敵利用

ナミハダニの薬剤感受性の低下が問題となっており、化学的防除だけでは十分な効果が得られにくい状況となっています。そこで、育苗期から、ナミハダニを効率的に防除する方法として天敵を活用した試験を行いました。

全ての試験区でナミハダニは発生しましたが、天敵を利用した区では減少が早く、定植時まで低く抑えることができました。



ナミハダニ頭数の推移



6/2 設置後の状態

### 【今後の展開方向】

今後も試験に取組み、適正な0枚処理の時期、病害防除を含めた有効な利用方法の検討、技術の確立を図っていきます。

## (8) 鉄コンテナを用いたタマネギ収穫～貯蔵でらくらく作業を検討中

### 主な活動内容

【水田営農・畜産担当】

- タマネギ作業が集中する中晩生品種において、収穫から貯蔵までを大型鉄コンテナを用いて作業を省力化する体系を検討しています。今年、JAと協力して昇降機付きピッカー実演会を開催し、作業性調査や鉄コンテナでの貯蔵試験を行いました。貯蔵については強制通風することでコンテナ内部のタマネギもしっかりと乾燥が進み、品質面での問題はありませんでした。
- 現在、圃場での作業性等について評価・検討を行っているところであり、現地への導入に向けて関係機関一体となって取り組んでいきます。



昇降機付きピッカーで鉄コンテナへ収納



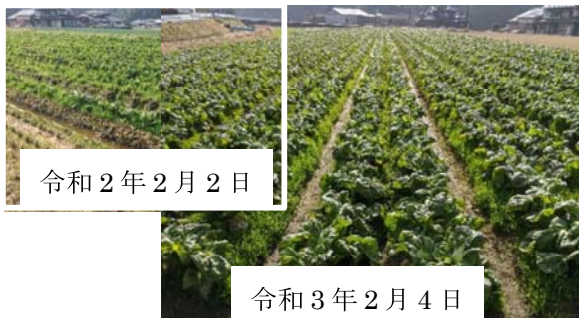
鉄コンテナ貯蔵試験

## (9) 集落一丸となって、おいしい高菜をつくりました

【園芸担当】

### 主な活動内容

- 杵藤エリアでは農業系安定のため露地野菜に取り組んでいる生産者が多く、特に加工用契約で価格が安定している高菜の検討を行いました。中若木地区では、2年前から高菜の試作に取り組みましたが、気象や雑草などの影響により思うような収量が得られませんでした。
- 今年度は集落に野菜班を設置し、野菜班を中心に密な指導を行うことで、排水不良や雑草などへの早急な解決や適期作業が可能となりました。その結果、昨年までに比べて生育が大いに良好で、集落の方からも「今までで一番の生育で、3月の収穫が楽しみです。」という喜びの声が上がりました。



令和2年2月2日

令和3年2月4日



現地研修会(定植)



主な活動内容

- 管内のキク若手生産者は、高品質な輪ギクの周年安定生産を行っていますが、低温・寡日照時期の作型(2~3月出荷)は、花芽分化に必要な温度を確保するための燃油コストが課題となります。
- そこで、2月および3月出荷作型において日没時の短時間だけ加温するEOD加温技術について展示圃で実証しました。
- 電照消灯からの到花日数の遅れもみられず、収穫時の切り花品質も同程度であり、燃油消費量を約3割削減可能であることが明らかとなりました。



図1. 低温寡日照期の圃場

【成果等】

1. EOD加温管理について

- (1)冬期のキク栽培は、電照消灯後の花芽分化期の夜温を18℃程度に確保する必要があり、生産者は燃油消費量削減のため4段サーモを活用した変温管理を実施しています。

※展示圃生産者は17℃(5h)-16℃(5h)-15℃(4h)設定

- (3)EOD(End Of Day)加温は、日没時4時間のみを20℃、その後12℃に下げる温度管理(図1)であり、慣行と比較しての燃油量削減効果を実証しました。

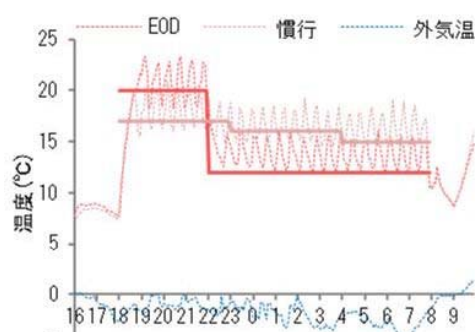


図1. 展示圃施設内の夜温の推移(2021/1/9)

2. 収穫時の切り花形質

- (1)EOD加温と慣行加温の到花日数は同程度であり、同時期に開花しました(図2)。
- (2)また、草丈、節数、茎径も慣行と遜色ない切り花品質を確保できました(データ略)。



図2. EOD加温(左)と慣行加温(右)のキク

3. 燃油消費量(加温機着火回数)削減効果

- (1)今冬は12月中旬までは暖冬傾向であったものの、1月~2月は積雪もみられる厳寒期となりました。
- (2)EOD加温期間(花芽分化期)は、2月出荷作型で12/11~1/15、3月出荷作型で1/5~2/10でした。
- (3)その期間の加温機着火回数を比較すると、慣行を100とした場合、EOD加温の着火回数は2月出荷作型で76、3月出荷作型で69となり、燃油消費量を約3割削減できたことが推察できました。

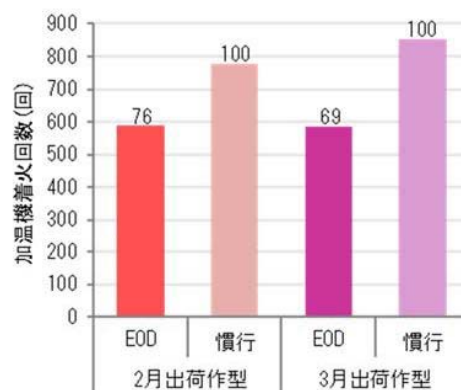


図3. 冬期出荷作型の燃油消費量削減効果

【今後の展開方向】

今年度の試験により、EOD加温は厳寒期ほど燃油消費量削減効果が高いことが明らかとなりました。キク生産者はすでに4段サーモを所有しているため、次年度以降は管内の多くのキク生産者への導入が見込まれる予定です。

**(11) 杵藤地区スイートピー研究会「佐賀ラティルス研究会」が発足！ 【園芸担当】**

**主な活動内容**

- 近年、杵藤地区スイートピー生産者全員が集まって、室内研修会や現地研修会、先進地視察を行い、技術研鑽に努めています。
- 今年度、全員で「佐賀ラティルス研究会」を立ち上げました。研究会名はスイートピーの学名に由来し、「情熱的」という意味も含んでいます。オリジナル品種の育成に取り組む生産者、品質にこだわる生産者、輸出に取り組む生産者で、研修会での話は尽きません。情熱的な生産者を普及センターも支援することで、今後、佐賀のオリジナルスイートピーを世界へ発信していきます！



「佐賀ラティルス研究会」



スイートピー現地研修会

**(12) 根域制限栽培で高品質ミカンの安定生産 【園芸担当】**

**主な活動内容**

- 根域制限栽培は杵藤地区のカンキツ生産者のもとで導入が進んでおり、毎年高品質なみかんを生産されています。
- 当技術はとくに適切な結実管理や水管理が課題であり、普及センターでは、枝別摘果展示圃及び結実促進展示圃による適正着果量の確保、早期マルチ展示圃、果実肥大状況に応じた水管理、分散収穫試験による果実品質 up に取り組みました。また、大規模化に向けた液肥による施肥管理の効率化に取り組んでいます。
- さらに、技術導入者向けに栽培管理シートを作成し、生産者へ配布しました。



根域制限栽培圃場



液肥混入器

根域制限栽培管理シート

| 年次   | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 生産状況 | 結実 | 結実 | 結実 | 結実 | 結実 | 結実 | 結実 | 結実 | 結実 | 結実  | 結実  | 結実  |
| 水管理  | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量  | 適量  | 適量  |
| 液肥管理 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量  | 適量  | 適量  |
| 摘果管理 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量  | 適量  | 適量  |
| その他  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |

根域制限栽培管理シートは、生産者の栽培管理を支援するためのツールです。このシートには、年次ごとの栽培管理の記録を記入するための欄があり、生産状況、水管理、液肥管理、摘果管理などの項目が記載されています。また、根域制限栽培のメリットやデメリット、水管理のポイント、液肥の使い方などの情報が記載されています。このシートを参考に、生産者は最適な栽培管理を行うことができます。

栽培管理シート

### (13) イノシシから農地を守るために～御所地区集落点検会を開催しました～

主な活動内容

【水田農業・畜産担当】

- 武雄市若木町の御所地区ではイノシシによる農作物被害が多発しており、集落の農地を維持管理していくうえで大きな問題となっています。
- このような中、当地区ではイノシシにおける集落点検会を8月に開催しました。  
当日は約20名の農業者、関係機関が集まり、イノシシの被害圃場や住処、餌場をワークショップ形式で地図に落とし込みました。
- 餌場となる栗の木が多いことやワイヤーメッシュの破壊箇所があることを集落全員で共有し、実際に現地を確認したりワイヤーメッシュの破壊箇所を適宜補修したりすることで被害対策およびイノシシに負けない農業をしていくぞ！という結束をさらに強めることができました。



被害箇所を集落みんなで情報共有



イノシシの被害箇所をマップで見える化

### (14) もっ～と稼ごう！！酪農分娩間隔短縮プロジェクト！

主な活動内容

【水田農業・畜産担当】

- R1年度から酪農家を対象とした分娩間隔短縮プロジェクトが県下で実施されており、管内では1戸を対象に関係機関が一体となって支援をしています。R1年度は個体管理を強化するために乳牛の発情や分娩日を家族間で共有することができる繁殖管理版を設置しました。
- さらにR2年度からは分娩後の子宮を早期に回復し、空胎日数を短縮するために、既存の飼料給与量に対し、濃厚飼料を補完的に給与する取り組みを開始しました。  
この2年間の取組の結果、分娩間隔は430日から409日まで短縮しており、乳量も増量しています。
- 今後もさらなる分娩間隔短縮に取り組むとともに、乳量のアップにもつなげ、もっ～と稼げる酪農経営のモデル構築を支援していきます。



関係機関による支援（聞き取り）



飼料摂取状況の確認

## (15) 第47回 佐賀農業賞受賞者の紹介

### ○先進的農業経営者の部

【優秀賞】

武富 政敏・由美子氏（江北町）

#### 「全国トップレベルの高品質切り花生産技術の伝承者」

- ・スイートピー、トルコギキョウ、シンテッポウユリ  
‘真美白花’等の高品質切り花を生産しています。
- ・全国トップレベルの技術は植物の生理生態に基づいた栽培管理のなせる技です。
- ・地域の若い生産者は自分の後継者であるとの思いから、研修会では熱心に後輩を指導され、今後は武富氏が育成した後継者の活躍も期待されます。



### ○若い農業経営者の部

【最優秀賞】（特別賞・九州農政局長賞）

白浜 学・初美氏（白石町）

#### 「大規模土地利用型農業および施設花き経営の両立」

- ・30ha を超える農地による米麦大豆の生産および約1ha の施設による花き栽培を展開しています。
- ・米づくりでは、就農当初から『美味しさ』と『安全性』を重視した栽培法を追及したことで、白浜農産ブランドを確立し、花づくりでは、スイートピーとデルフィニウムを主に年間7品目以上の花きを栽培して周年切れ目ない出荷を行っています。
- ・今後の農業経営モデルの一つとして今後の地域への貢献度も大きいと期待されます。



### ○地域活性化の部（生産性向上部門）

【優秀賞】

農事組合法人西梅野ファーム（武雄市）

#### 「集落内の全戸で守り楽しめる農村づくり」

- ・組織運営で最も重要視されているのは、「楽しく農業経営ができるための話し合う場づくり」で、新しいチャレンジにも積極的に取り組まれています。
- ・平成29年からの大豆集荷業者や佐賀大学等と連携した大豆新品種の産地確立にむけた取組みはその一つです。
- ・ファームの組織力強化にむけた手法と成果は、他地域の波及性が高いものであり、中山間のモデル組織として、今後益々活躍が期待されます。

